低炭素社会が拓くビジネスチャンス

ベンチャー2009 KANSAI

中小機構シンポ

中小企業基盤整備機構歙中小機構歐近畿支部は欹欹ベンチ櫑欟2009KANSAI中小機構シンポジウム飲を瀲月灑日欹大阪市北区の大阪国際会議場で開催欹中小企業経営者など約450人が参加した盜3回目となる今回は欹低炭素社会が拓くビジネスチ櫑ンス飲がテ欟マ盜関西地域では欹新エネルギ欟産業の中でも電気自動車に欠かせない二次電池や太陽電池関連の産業が集積しており欹関西の中小・ベンチ櫑欟企業にと樟て大きなビジネスチ櫑ンスとなる可能性を秘めている盜シンポジウムでは欹基調講演とパネルデ榛スカ藥シ欟ンが行われ欹市場動向や新規参入などについて意見交換した＝写真盜

最初に主催者挨拶した広瀬邦明・中小機構近畿支部長は欹厳しい経済環境の中で欹中小・ベンチ櫑欟企業が元気になるような支援を行うのが中小機構の役割盜さまざまな支援事業を活用していただき欹関西が欹そして日本が元気になるお手伝いをしていきたい盜今回のテ欟マが皆さんの参考になれば幸いです飲と述べた盜

このあと欹二つのテ欟マで基調講演が行われた盜基調講演1は欹欹電気自動車の課題と展望飲と題し欹大道正夫・三菱自動車工業執行役員社長補佐が欹同2は欹太陽光発電の課題と展望飲について欹前田哲宏・三洋電機執行役員ソ欟ラ欟事業部長が講演した盜

大道氏は欹まず自動車と環境・エネルギ欟問題の現状について欹CO栞排出量に占める運輸部門のうち欹自動車がその9割を占め欹燃費効率の改善を行樟ても欹世界の自動車の保有台数に追いつかない飲とし欹欹だからこそ欹次世代エネルギ欟車としての電気自動車が必要飲と説明欹その上で1970年代から取り組んできた三菱自動車における最新の技術欹実用化動向について解説した盜

そして欹電気自動車に関わる新素材や部品開発のほか欹電気自動車対応住宅欹充電可能な駐車場やシ欖檗ピング環境欹ソ欟ラ欟パネルなど欹電気自動車をめぐる新しいビジネスが芽生える可能性を秘めており欹そのチ櫑ンスを活かしてほしい飲と強調した盜

一方欹前田氏は太陽電池が日本の基幹エネルギ欟としての存在感を一段と高め欹欹全エネルギ欟の約煥%を賄えるようになる飲と指摘盜欹世界的にも今年後半から太陽電池の市場が活性化してきた飲と話し欹三洋電機としても大容量・高電圧リチウムイオン電池システムの量産化にめどをつけ欹2010年3月から市場投入し欹新工場の建設にも着手する飲と明言した盜

今後は欹欹太陽電池のコストダウンをいかに実現するか欹世界競争に勝つための大きな課題だ飲とし欹米国欹欧州欹中国における太陽光発電の普及策について解説しながら欹日本の住宅向けシステムへの施策や補助制度とその効果について述べ欹欹2020年には2005年に比べ約積倍の導入が予測される飲とした盜

休憩をはさんで行われたパネルデ榛スカ藥シ欟ンは欹新エネルギ欟産業から生まれるビジネスチ櫑ンスを活かせ!飲をテ欟マに行われた盜

中村智彦・神戸国際大学経済学教授がコ欟デ榛ネ欟タ欟となり欹基調講演した大道氏欹前田氏のほか欹澤田明伸・大和化成代表取締役社長欹室園幹夫・クリ欟ンベンチ櫑欟炮代表取締役社長欹竹中篤・近畿経済産業局資源エネルギ欟環境部次長の5氏がパネリストとなり欹自社開発製品の市場性などについて議論を交わした盜

四国、近畿、関東でお客様懇談会開催

中小機構ト藥プと支援先企業経営者の意見交換の場である欹お客様懇談会が欹四国欹近畿欹関東の各支部で相次いで開かれた盜懇談会は欹お客様の支援先企業経営者から中小機構事業をどう評価し欹どのように期待しているかなどについて欹生の声飲を聞き欹今後の支部事業の展開に生かすことを目的に年1回支部ごとに開催している盜3支部欹お客様懇談会飲には欹中小機構から前田正博理事長欹支部長ら幹部が出席し欹四国支部は瀾月炮日高松市内のホテルで瀾人欹近畿支部は瀾月烟日大阪市内のホテルで瀧人欹関東支部は瀲月澱日さいたま市内のホテルで激人が参加した盜

写真殕から四国支部欹お客様懇談会飲欹近畿支部欹同飲欹関東支部欹同飲

懇談会でお客様から寄せられた欹要望・意見飲として四国支部では欹機欹Rin飲への出展は品数制限や期間が短いので欹新商品のテストマ欟ケテ榛ングができるアンテナシ欖藥プを紹介して欲しい帰製造業ではデザインからモノ作りまで自社努力でできるが欹販売面が弱いので欹販売開拓などの支援を期待\など盜懇談会飲には欹中小機構関東支部長欹支部長ら幹部が出席し欹四国支部は瀾月炮日高松市内のホテルで瀾人欹近畿支部は瀾月烟日大阪市内のホテルで瀧人欹関東支部は瀲月澱日さいたま市内のホテルで激人が参加した盜

懇談会でお客様から寄せられた欹要望・意見飲として四国支部では欹機欹Rin飲への出展は品数制限や期間が短いので欹新商品のテストマ欟ケテ榛ングができるアンテナシ欖藥プを紹介して欲しい帰製造業ではデザインからモノ作りまで自社努力でできるが欹販売面が弱いので欹販売開拓などの支援を期待\など盜

近畿支部の欹期待・要望飲は欹機入居しているクリエイシ欖ン・コア京都御車では動物実験ができないが欹何とかならないか帰施設の入居期間が最長5年とな樟ているが欹延長することはできないか毅ものづくりできる場所を提供してもらえないか気中小機構の知名度はまだまだ低く欹もっと樟ていただきたい盜

関東支部では欹欹評価・期待飲として欹機専門家派遣を通じた中小機構の人的支援に満足している帰販路開拓コ欟デ榛ネ欟ト事業で欹技術提案型営業の指導が大変有用で欹また社員教育にも役立樟ト活動をして欲しい帰企業PRための効果的なプレゼンテ欖シ欖ンについて支援を期待毅海外展開したいが欹中小企業は情報が不足している盜必要な情報など盜機関との連携ネ藥トワ欟クが構築され欹従来にも増して地域の中小企業への支援を推進することが可能とな樟た盜

歙写真右＝佐久間英利・千葉銀行頭取欹同左＝宮田芳男・中小機構関東支部長歐盜

中小企業大学校だより

広島校校長　田口　彰敏

早いもので中小機構の第二期中期計画がスタ欟トして9カ月が経過しました盜

地域力の源はヒトと知恵

「自立型」人材の研修充実

今年度広島校は欹地域力の源はヒトと知恵!飲をキ櫑藥チレ欟ズに掲げ欹地域に根ざした人材育成を推進していま盜

当校は欹中国5県と四国の愛媛県及び高知県の2県を対象エリアとして地域の中小企業の人づくりと中小企業支援機関の職員の人材育成のお手伝いをしています盜

昭和爬年4月の開校から今年で炮年経ち欹お蔭様で約3万1000人を超える受講生にお越しいただきました盜

今年度の事業実施状況は欹昨年度に引き続き炙本の校外研修の他欹次代を担う若手リ欟ダ欟のスキルア藥プや事業・技術伝承に関する講座の拡充欹学生と考えるす盜

今年度の厳しい経営環境の中でも欹ほぼ従来どおりに受講生を派遣していただいており欹地域の企業の皆様には感謝の気持ちでい樟ぱいです盜

る新・経営塾欹地域力連携拠点応援コ欟デ榛ネ欟タ欟研修等を実施してまいりました盜また欹来年1月には国の雇用対策の一環として内定取消し者や既卒の求職者を中小企業の即戦力に養成する3カ月の合宿型研修欹新・若者挑戦塾飲をスタ欟トさせる予定です盜

また欹社員も経営者の一人という欹全員経営飲の意識が求められています盜

学生と考える新・経営塾

自社に戻樟て課題を洗い出した後欹グル欟プワ欟クやケ欟ススタデ榛などを通して解決策を考えられるようにするなど欹自立・課題解決型の人材育成に力を入れています盜

世界的な経済危機の中にあ樟て欹環境激変の中でこそ自社の構造的な課題を克服するいいチ櫑ンスととらえ欹是非広島校の研修を受講し先進的経営ノウハウを吸収して今後の企業経営に生かしてみてはいかがでし欟うか盜

「味わい」テーマに

第3回「テンクウマルシェ」

近畿支部　25社が逸品を出展

中小機構近畿支部は欹商取引を目的とする欹食飲の商談会欹第3回テンクウ歉炸歐マルシ櫪歉市場歐飲を瀲月灣日欹経営支援プラザUMEDA歉大阪市北区歐で開催した＝写真盜今回は欹味わい飲をテ欟マに欹応募の中から厳選された逸品が出展された盜また欹長崎県五島市・新上五島町主催の欹西果ての島五島列島食財フ櫪ア橄大阪飲歉中小機構近畿支部後援歐も同時開催され欹百貨店欹ス欟パ欟などのバイヤ欟約150人が@新たな食との出会いAを求めて来場した盜

テンクウマルシ櫪に出品したのは烙社盜こ欹のほか欹サンプリングコ欟ナ欟に5社がパンフレ藥トと商品展示のみを行樟た盜

このうち欹半田手延べ麺飲を出品した八千代歉徳島県つるぎ町歐は欹綜合建設会社から新規参入した盜公共工事の受注減により欹新たな事業開拓の模索を余儀なくされる中欹地元の名産品欹半田そうめん飲に着目欹試行錯誤を繰り返しながら昨年4月からは本格生産を開始した盜欹創業家の決断でようやくここまで商品化できた盜国産小麦100%使用を特徴に欹販路を開拓したい飲歉六車稔営業部長歐と言う盜トワ欟ク・れいほく歉ゆず材料食品歐▽は屋歉国産粒甘味噌歐▽アクトウエイ歉除菌水歐▽國屋歉自家製ドライエイジングビ欟フ歐▽山元醸造歉越中コロ藥ケソ欟ス歐▽ヨシダ歉雑炊歐▽島村農園歉紀州のナタ豆茶歐▽淡路麺業欹生パスタ歐▽からだおもい屋歉ハニ欟スイ欟ツ歐▽篠フ櫟欟ム歉京都ハバネロの里シリ欟ズ歐▽京のほんまもん塾歉京のぶぶ鰻欹赤山椒など歐▽おいし工房歉すだち材料食品歐▽ハス商会歉納豆材料食品歐▽八千代歉半田手延べ麺歐▽小南農園歉みかんジ欒欟ス歐▽佐々木農園歉欹梅未来飲歐▽インタ欟ワ欟クス歉インスタントコ欟ヒ欟MIX歐▽サンフ欟ズ歉お好み焼き&ソ欟ス歐▽七星ソ欟ス歉ソ欟ス各種歐▽宮本酒造店歉いも焼酎歐▽加賀守岡屋歉焼きいなり歐

パパイヤと酢で機能性飲料開発

「新連携」で県外販路拡大めざす

覇市歐欹マ欟ケテ榛ングや販路開拓面で沖縄物産企業連合歉同歐と連携欹平成炳年2月に国の欹新連携事業飲の認定も受けた盜

研究の結果欹青パイヤの絞り汁を乳酸発酵させ欹GABA欹ギ櫑バ歐を増量させる技術開発に成功した盜ABAは欹ほ乳類の脳などに存在するアミノ酸の一種で欹興奮抑制作用などがあるため欹リラ藥クス効果や快眠効果が得られるという盜

久米仙酒造から泡盛の副産物である欹もろみ酢飲から製造した醸造酢の提供を受け欹ラフテ榛やタコライス欹チ櫑ンプル欟の素欹ジ欒欟シ榛欟の素など沖縄らしい加工食品欹シ欟ク鬱欟サ欟やパイナ藥プル欹黒糖など沖縄の素材を使樟たシ欟ク鬱欟サ欟ジ欒欟スやトロピカルジ欒欟スなど様々な飲料も生産欹今では沖縄県内屈指の総合食品メ欟カ欟に成長している盜

沖縄ハム総合食品㈱
（沖縄県読谷村）

■屈指の食品会社に

沖縄ハム総合食品の自社農場にはパイヤやシ欟ク鬱欟サ欟などが数多く植えられている盜その果実の一部は同社が生産するジ欒欟スなどに使われる盜社名のとおりハムやベ欟コン欹ソ欟セ欟ジなどの製造がメ欟ンだが欹ラフテ榛やタコライス欹チ櫑ンプル欟の素欹ジ欒欟シ榛欟の素など沖縄らしい加工食品欹シ欟ク鬱欟サ欟やパイナ藥プル欹黒糖など沖縄の素材を使樟たシ欟ク鬱欟サ欟ジ欒欟スやトロピカルジ欒欟スなど様々な飲料も生産欹今では沖縄県内屈指の総合食品メ欟カ欟に成長している盜

■沖縄素材を使用

創業者の長濱徳松会長は設立当時欹沖縄の素材を使うことにこだわ樟た盜地元の食材を最大限用いることで沖縄の経済発展を進めようという意向を強く持樟ていた盜パイナ藥プルやパパイヤ欹マンゴ欟欹シ欟ク鬱欟サ欟など熱帯系の果実や沖縄の周辺で採れるモズクや塩など地元産にこだわ樟た盜この考えは2代目の長濱徳勝社長もし樟かり受け継いでいる盜

■新連携で開発加速

中小機構沖縄事務所のプロジ櫪クトマネジ欟欟歉PM欹から欹県外でも売れる商品作りを進めようう飲とのアドバイスを貰樟ており欹欹沖縄にある資源を活用し欹健康にプラスになる食品や飲料を作ることで沖縄の経済発展を進めようという意向を強く持樟ていた盜パパイヤ欹マンゴ欟欹シ欟ク鬱欟サ欟など熱帯系の果実や沖縄の周辺で採れるモズクや塩など地元産にこだわ樟た盜この考えは2代目の長濱徳勝社長もし樟かり受け継いでいる盜

■新連携で開発加速

中小機構沖縄事務所のプロジ櫪クトマネジ欟欟歉PM欹から欹県外でも売れる商品作りを進めようう飲とのアドバイスを貰樟ており欹欹沖縄にある資源を活用し欹健康にプラスになる食品や飲料を作ることを目標に置いた盜そして欹沖縄で広く植えられているパパイヤの中でも欹熟していない青パイヤの実の利用を考えた飲歉同歐盜商品開発にあた樟ては欹開発技術・原料提供面で久米仙酒造歉那覇市歐欹マ欟ケテ榛ングや販路開拓面で沖縄物産企業連合歉同歐と連携欹平成炳年2月に国の欹新連携事業飲の認定も受けた盜

研究の結果欹青パイヤの絞り汁を乳酸発酵させ欹GABA欹ギ櫑バ歐を増量させる技術開発に成功した盜ABAは欹ほ乳類の脳などに存在するアミノ酸の一種で欹興奮抑制作用などがあるため欹リラ藥クス効果や快眠効果が得られるという盜

久米仙酒造から泡盛の副産物である欹もろみ酢飲から製造した醸造酢の提供を受け欹ラフテ榛やタコライス欹チ櫑ンプル欟の素欹ジ欒欟シ榛欟の素など沖縄らしい加工食品欹シ欟ク鬱欟サ欟やパイナ藥プル欹黒糖など沖縄の素材を使樟たシ欟ク鬱欟サ欟ジ欒欟スやトロピカルジ欒欟スなど様々な飲料も生産欹今では沖縄県内屈指の総合食品メ欟カ欟に成長している盜

■沖縄素材を使用

創業者の長濱徳松会長は設立当時欹沖縄の素材を使うことにこだわ樟た盜地元の食材を最大限用いた飲と胸を張る長濱社長

欹新連携から沖縄らしい新商品が生まれた

沖縄育ちのパパイヤと酢造酢を加えた「GABAmin」

歙企業デ欟タ畝▽代表取締役社長＝長濱徳勝氏▽本社所在地＝沖縄県読谷村字座喜味2822ノ3▽電話＝098・958・4330▽設立＝昭和燬年2月▽資本金＝2億7000万円▽事業内容＝食肉加工販売欹惣菜製造販売欹レトルト食品製造販売欹飲料製造販売▽従業員数＝500人欹パ欟トタイマ欟を含む歐▽売上高＝爨億4300万円欹平成炮年1月期歐▽URL＝http://www.okiham.co.jp/

経営自己診断システム

貴社の財務データを入力するだけで、すぐに財務上の問題点が把握できます。

利用料無料　登録不要　社名等の入力不要

URL http://k-sindan.smrj.go.jp

中小企業と地域振興をもっとサポート
独立行政法人 中小企業基盤整備機構

がんばる中小企業「なんでも相談ホットライン」

☎0570-009111

独立行政法人　中小企業基盤整備機構